

彩の合気

編集発行
埼玉県合気道連盟

埼玉県合気道連盟機関紙No. 3

副会長就任に当たって



副会長 林 昭男

この度総会にて、副会長として選任されました浦和合気会の林でございます。

埼玉県合気道連盟は、情報交換や親睦を目的に設立され、14年が立ちました。しかし、そろそろ、変わらなければならない

時期にきていたと思います。昨年、市塚理事長の体制となり1年が過ぎました。実務的な面では、事務局も充実され、連絡事項一つ取っても、又、総会そのものにも変化が見られます。きちりとした総会場（今回は、埼玉会館）で、熱気有る意見交換等するなど、又親睦を目的には、場所を変えて歓談する等々、何かが変わって来つつある事が感じられました。

昨年度は、新規加入団体も数団体有り、今年度も加入団体が有るようです。魅力ある連盟作りが必要です。その様なことが、県体協への加入にも影響してくると思います。今までにも増して、魅力溢れる情報の発信源で有るべきだと思います。

連盟の活性化、活気作りが私の役割とっております。微力では有りますが、連盟の運営がその様に行われますよう、協力していきたいと思っております。簡単ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。

埼玉連盟主要行事

1. 第15回定期総会

5月31日、埼玉会館・会議室で36名（含委任状）の参加を得て定期総会を開催し、平成8年度の事業報告・決算報告、平成9年度の事業計画・予算案、役員改選などを審議、決定しました。

1) 平成8年度事業報告及び決算報告

原案通り、満場一致で承認されました。

2) 平成9年度事業計画案及び予算案

原案通り、満場一致で承認、可決されました。

3) 役員改選

牧野副会長辞任に伴う副会長の選出については、理事会決定通り、浦和合気会の林会長を推薦、原案通り、満場一致で承認されました。

4) その他

イ) 15周年記念誌の件

下記の通り編集委員を決定しました。

編集委員長 中島副会長

副委員長 林副会長・市塚理事長

編集委員 各常任理事・藤田事務局長

団体連絡員 各理事

ロ) 広報活動の強化

機関紙「彩の合気」を活用し、各団体間の情報交換を密にする。

ハ) 県体協加盟

日体協を訪問（吾妻常任理事）したが、県体協への指導は困難とのことでした。

尚、日体協へは、合気道以外の武道関係団体は殆どが加入していることも判明しました。

当連盟としては、県体協への接触を強化する必要があります。今後は連盟会長にもバックアップをお願いする方向で行動する事を確認しました。

二) 新規加盟申請の件

吾妻常任理事の推薦で、狭山合気道教室及び航空自衛隊入間基地合気道部の加盟申請があり、満場一致で承認されました。その結果、加盟23団体となりました。

2. 埼玉連盟合同講習会

7月6日（日）、上尾スポーツ研修センター（主管道場・浦和合気会）に本部道場長・植芝守央先生をお迎えし、第15回合同講習会を開催しました。

今回は、22団体、223名と過去最高の参加者となり、異常気象による高温と参加者の熱気が相まって、酷暑の中での講習会となりました。

講習会は、市塚理事長の司会で始まり、主管道場である浦和合気会の林師範による開会の辞、主催者を代表して中島副会長の挨拶があり、次いで本部道場長による講習会に入りました。

講習は、後ろ取りで両手首、両肘、両肩と部位を変えながら、一教、入り身投げ、四方投げ、呼吸投げなどの技を通して、合気道の心を説明していただ

きました。

直会は、上尾駅前のプレーメンで50名が参加、道場長を囲んで和やかに歓談しました。



次回は越谷市合気道連盟の担当となりますが、更に多くの参加を期待しています。

「講習会に参加して」

浦和合気会 萩原

毎年恒例に行われている埼玉県合気道連盟講習会に参加し、非常に良い経験をさせていただきました。

また、猛暑にもかかわらず道場長の気の入った稽古を受けることができ、有意義な一日を過ごすことができました。

私は、何度か本部道場で道場長の稽古を受けさせていただきましたが、今回の講習会で、より具体的に心・技・体について再度考えさせられました。後ろ両手取りを中心に、入り身・転換の重要性及びその技の生かし方について、詳細な説明とともに実技指導があり、日頃当たり前に行っていることについて、新しい発見や確認をすることができました。



今回の講習会で学んだことを、日々の稽古に生かすとともに、自分の目標とする合気道を、目指して行きたいと思います。

加盟団体紹介〔3〕

1. 合気会上福岡支部

当道場は、東上線福岡駅北口から歩いて約15分、台地の住宅街のなかに明るく開けた第1中学校の格技場で稽古をしています。

月、水、土の夜8時から、曜日毎に異なる指導員が担当しています。

当道場は、昭和38年の船守道場に始まり、故船守啓之先生の跡を現在の星道場長を中心に守り、船守夫人の逝去後、道場名を変更し現在の場所へ活動拠点を移しました。

現在の常籍者は17人、うち2人が女性です。

指導は、星道場長、牛木、大塚指導員がそれぞれの稽古日を担当しており、各人の特長を生かした幅の広い指導をしています。3人の一致した方針は、実際に有効な技を目指して道を追求することです。

この春には、2人の初段が誕生しました。みっちり3年間稽古を積んだうへの袴であり、当人たちは待ち遠しかったことでしょうか、どこに出してもはずかしくないものを身につけてくれたというのが、指導員達の感想です。



年次計画としては、年2回友好道場と合同稽古を
することとしています。

同じ市内の東上線の線路の南側には、本部師範の
佐々木将人先生が道場を開いて指導されており、当
道場の合宿、合同稽古等折りに触れて、親しく指導
をいただいています。

PRの方法としては、道場の看板を出すわけにい
かないので、年2回の市報掲載と毎月1週間の駅ホ
スター掲示(有料)をしています。

人数は多くはありませんが、合気道の魅力にとら
われてしまった者同士で、帯の色、袴を問わず熱心
な稽古が続いています。(小林)

2. 合気道川越道場

合気道川越道場は、道場長(島田)が、昭和45
年に川越市内の自宅の敷地内に開設した道場です。

開設当時は、合気道が世間あまり知られておら
ず、県内はもとより、県外から訪ねて来る人もあり、
また、今のように品の良いばかりでなく、いやが
らせの電話や他流からの信察のための入門者もあ
つて、結構対応に骨が折れました。

しかし、本部道場からのあたたかい支援をいた
だき、三週年には道主、十周年には故大沢先生、また
二十五周年には道場長、その他髣髴たる師範の御来
訪を賜り、今日を築くことができました。



当道場は、一貫して、古参の者が親切であること、

そして互いに技の強弱を主張し合うのではなく、稽
古を終えた後で心から「ありがとう」と言えるよう
に、思いやりのある、さわやかな稽古をしよう、と
いう姿勢を堅持してきました。幸い、この考えに共
感し、支持してくれる素晴らしい人々にめぐり逢え
て、最高に雰囲気の良い道場となっております。

稽古では、とくに「俺がや」という気持ちで扱わ
れがちですが、そういう稽古はむしろ有害無益であり

ますので、合気道の稽古で得たものが生活のどこか
で必ず生きてくるようにと、専ら互いの気を練るこ
とに力点を置いた稽古をしています。

道場の稽古は、大人クラス週4回、子供クラス週
2回です。大人クラスは、新しい入会者が少なく、
有段者ばかりが残って、高齢化が進んでおります
ので、若者の入会を待ち望んでおります。

なお、希望があれば、柳生新陰流剣術の稽古も併
せて行っております。(島田)

3. 合気道新光支部

読者の皆さん、こんにちは。
この度、合気道新光支部の紹介記事を載せていた
だけるとの事で、支部員の皆に新光支部について
語ってもらいました。

進行役は、私、尾形元枝です。
尾形：まず御夫妻で通われている山口さんの奥さん、
道3回の稽古のうち何回位出られますか。

由美：2回位ですね。
尾形：ご主人は・・・
英治：私も仕事の合間をぬって2回位はでています。
でも始めた頃よりも5kgも太ってしまいました。

よ。
尾形：どうしてだと思いますか。
英治：稽古後の居酒屋での稽古のせいでしょうね。
尾形：和気あいあいとしている様ですが、今のとこ
ろ部員は何人位でしたっけ・・・

畔柳秀行：子供40名位、大人も30名は越してい
ると思います。そのうちの子供2人、大人2人は
うちの家族です。

まあ経種多様な人がいますね。
和子：先生のご指導のおかげで子供達は誰に対しても
あいさつできる様になりましたね。それから、ケ
ンカしても自分からは手を出しませんよ。

私は師範の大ファンですね。



尾形：子は親の鏡ならぬ、弟子は師範の鏡、鏡けかけ行き届いている様で少年部の親御さんも安心でしょう。

ところで稽古の方も”鏡”同様厳しいですか。

向笠：入部して6年たちますが、稽古はついていくのがやっとなです。

和田：最初からハードで、どんどんきつくなって、でも最後に快感になりますね。

尾形：和田さんは東大合気道部の出なんです、最近偶然にも先輩にあたる方が入部しました。

根本さん、稽古は学生の時と何か違いますか。

根本：当時は頭を打たせるのが合気道だと思っていましたが、師範は違いますね。

尾形：そうですか。では、先生の事を皆さん、どう受けてますか。

清水：超人！

ジェーソン：やさしい、それにすごく上手。

山口憲二：先生は台風の目ですね。回りが振りまわされてますよ。

尾形：技にも現れていますよね。高校の教員で自ら合気道部を興された松橋さん、いかがですか。

松橋：先生は”生きる辞書”ですよ。”合気道は絶対的に強くなければならない”という先生の言葉は、よく引用させてもらってます。

尾形：やっていた空手をやめ合気道一本に絞った沼畑さんは、どうですか。

沼畑：先生と接して、技の成長より人間的な成長の方が大切だと分かってきましたね。

尾形：そうですね。先生は遠山満、中村天風、佐々木将人といった大人物の流れを汲んでますから、心の在り方を大切にしていますよね。でも、先生って堅っくるしい存在なんですか。

吉川：いえいえ剛あり柔あります。誰よりお酒が好

きだし”そうそう”先生の行く所禍いあり”なんですけど、どうも先生は弟子に腕だめしさせてる様なんです。もちろん、皆な手は出さないで相手と合気し和合しますね。

尾形：合気とか和合とか、合気道ではよく使いますが、先生どういう事なんでしょう。

川路師範：相手を尊重し、なおかつ自己を主張し吸収する。それを実社会で生かせる様合気道によって肚を練る。少年部でもよく言いますが、稽古も大切だが普段の事も大切なんですね。

尾形：”常住兵法、兵法常住”なんですね。

尾形：和光支部のカラーは則ち川路師範の人柄なんだと思います。その師範を軸に、部員達は周りがつちりスクラムを組んでますね。結束がかたいというか……。皆な師範が大好きなんです。そんな師範を誰かが言いました。”野武士”だと……

新加盟団体プロフィール

1. 狭山市合気道教室

自然館吾妻館長が平成3年に設立、親子合気道を経て正式に合気道教室として発足した。当時数名でスタートしたが、口こみ等で会員が増え、現在は53名もの大所帯となった(成人20名、子供33名)。指導していただいている先生は自然館、人間基地の現役、OB合気会の方々と、多くの良き有段者に稽古をつけてもらっております。(松本)

2. 航空自衛隊人間基地合気道部

昭和38年6月1日、航空自衛隊OBで、現在合気会本部師範の磯山博8段によって発足した伝統ある防衛庁合気道連合会の中核的支部です。月～金、基地内合気道場で稽古しています。(山田)

〔編集後記〕

6月中旬に台風7号、8号と2つの台風が相次いで襲来したことは、昭和23年の観測開始以来とのこと、また気象庁の予報では今年も冷夏とのことであるが、県内でも40℃を越す猛暑の日が続くなど、異常な自然現象が起こっている。自然現象ばかりでなく、中学3年生の男の子が顔見知りの小学六年生を惨殺、切断放棄するというショッキングな事件も発生、心の荒廃ぶりに戦慄を覚えるこの頃です。

埼玉県合気道連盟の各加盟団体にも多くの少年少女が参加しており、合気道を通じて、優しい心の大切さを分かって頂けたらと願っています。そのために、県連としてなすべきことがあればご提案をお願いします。

県連としての大きな行事である少年錬成会及び合同講習会も無事終了しました。次号には、各団体の記念演武会等の記事を載せたいと思いますので、宜しくご協力をお願いします。(市塚)